

2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[北九州市立泉台小学校] 担当教諭名[田中 久美子・杉野 茜] (5年 48名)
 交流相手国[インドネシア]
 海外学校名[SDN Lebak Bulus 02 Pagi] 担当教諭名[Saeful Alam]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	知らない国をのぞいてみよう	22
	社会	インドネシアについて知ろう	2

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	インドネシアと日本の心をつなごう
絵に込めたメッセージ	第1回テレビ会議(スカイプ)の際に、互いの地域の伝統や祭り、食べ物、遊びなどについて伝え合った。それをもとに、インドネシアと日本(北九州市)お互いの住むところのシンボルを一枚の絵に描いて、自然や文化を伝え合うことにした。絵の中心を道路と橋でつなぐことによって、距離は離れていても、心はつながるように、という願いを込めた。
	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・海外の文化等にあまり関心のなかった子どもたちが、インドネシアとの交流をきっかけに世界の国々に目を向けるようになった。 ・学年全員で一枚の絵を仕上げたことによって、子どもたちが達成感を味わうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアに絵を郵送する際、補償金額を高く設定し、関税の関係で受け取りまでに手間をかけさせてしまった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアの場所さえ知らなかった子どもたちが、インドネシアの文化等について家庭でも調べるほど、関心が高まった。同時に世界各国についても興味をもち、自主学習で調べている。外国語活動の取組に対しても意欲的になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアの学校教育の現場を垣間見ることができ、教師の視野も広がった。 ・日本の子どもと比べ、インドネシアの子どもの英語力が高いことが分かった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	10月	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介の方法を話し合う。 日本の学校生活の様子を知らせるビデオを作り、郵送する。 	英語を使って話すことに初めは抵抗を感じていた子どももいたが、インドネシアから送られてきた自己紹介ビデオを見ると、意欲が高まり、楽しんで活動に取り組んだ。	総合6 社会2
テーマ学習	11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> 電子フォーラムやテレビ会議を通して、自分たちの住む地域について調べたことや体験したことを報告し合う。 	言葉が通じなくても、ジェスチャーや歌を通して、インドネシアの子どもたちとつながることに喜びを感じていた。	総合4
構図決定	12月	<ul style="list-style-type: none"> 表現したいテーマについて募集する。 インドネシアと意見を交換し、構図を提案する。 下絵をフォーラムで提案する。 	北九州市の良さをアピールしようと、絵に表すものを意欲的に考えていた。	総合2
壁画制作	12月	<ul style="list-style-type: none"> 構図に合わせて下絵(彩色あり)をデザインし、キャンバスに写す。 グループに分かれ、全員で彩色する。 	大きなキャンバスを前に、たくさんの色を使いながら、ていねいに彩色を行った。完成したときには、達成感に満ちていた。	総合8
鑑賞・振り返り	2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> 第2回テレビ会議で、インドネシアで完成した壁画を見合い、お互いが描いてあるモチーフ等について質問し合い、説明し合う。 作品とともに記念撮影する。 修了式で全校の子どもたちへ活動報告をする。 	インドネシアからの質問に喜々として答えたり、相手の描いているものについての説明に興味深く聞いていた。作品を見たときには、目を輝かせ歓声をあげていた。報告会では、全校のみんなに見てもらえることに喜んでいました。	総合2

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	北九州市から世界に発進できるものを調べ、郷土愛が深まったと感じた。
異文化の理解	B	4	インドネシアの行事や遊び、食べ物などに興味をもつことができた。テレビ会議でインドネシア語のあいさつをした。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	5	楽しみながら、英語で日本の学校生活の様子を伝えるビデオを制作した。意欲的にジェスチャーや簡単な英語・インドネシア語を使って、インドネシアの子どもたちとつながろうとしていた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	3	パソコンを使って、北九州市の伝統やインドネシアの文化について調べた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	5	積極的にインドネシアの子どもたちと知り合おう、つながろうとしていた。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	工夫しながらビデオ撮影をしたり、アドバイスし合いながら絵を描いたりして学年の絆を深めた。
学習を追究する意欲	A	4	インドネシアの子どもたちに自分たちの思いを伝えようと、試行錯誤していた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	B	5	北九州市のシンボルを中心に、動きのある絵を表現しようと、話し合いながら構図を決めたり彩色したりした。
作品を鑑賞する力	B	3	絵が完成したことやインドネシアと日本の思いが繋がったことに感動を覚えた。